

本康歯科ニュース



「世界中のどの歯医者に行くよりも、この歯医者に来て良かった！！」と思ってもらえる歯科医院をめざして！！

成長発達を考慮した子供の矯正（第一期治療）

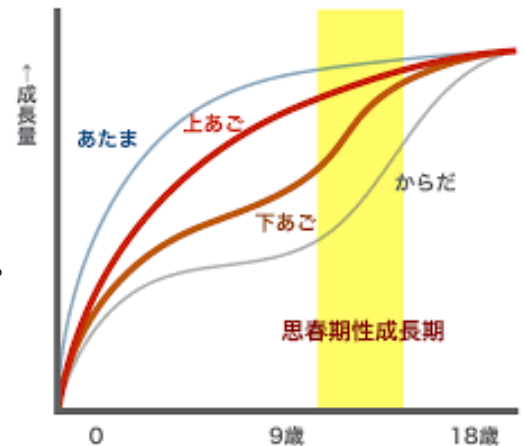
「子供は大人の小型ではない」。これは、子供の成熟過程における形態、生理、病理が大人と異なることを意味します。従って、治療も大人とは性質が違い、成長発達を視野に入れたものになります。

顎顔面領域では、上顎は神経型、下顎は一般型に近似したパターンを示すとされ、それぞれ成長時期が異なります。上顎の成長促進が必要だから、頑張って6、7歳で始めるとか、反対咬合は一応治ったけど下顎の成長は今から来る、といったことを考えながら治療を行います。これが大人の矯正治療とまったく異なるところなのです。

具体的には、顎発育の促進や抑制、特定の歯の接触による顎誘導の解消、永久歯の萌出余地の確保や回復、舌癖や吸指癖のような口腔周囲の不良習癖の除去なども行われます。どちらかといえば、歯を整列することよりも、顔の骨格を整え、咀嚼器官を育成することがこのステージでの目標です。

第一期治療(5, 6歳～11, 12歳)が永久歯列の正常咬合をもたらすとは言い切れませんが、後の第二期治療(12, 13歳以降)を易しくしたり省略したりすることができることもあります。

親御さんにとっては、「いつ矯正治療を開始したほうがいいのか？」と考えられておられると思います。1つ言えることは、デメリットもちろんありますが、早期に治療開始された方が、メリットが大きいです。大人と異なり、子供はまだ発育段階ですので、その成長力を上手に利用することで、歯並びをきれいに整えることができますが、もっと重要なのは早い段階で理想的そして十分な成長・発育を促すことで得られる健康です。これが正しい、あれが間違っているということではありませんが、十分な成長量を獲得するためには早期受診をお勧めします。



お伝え
します！

今、知っておきたい 歯科ニュース

約4万人を調査してわかった！
歯が多いと余命が長くなる

東北大学学際科学フロンティア研究所の調査によると、**残存歯数が多い人ほど余命期間が長くなる**ことがわかったそうです。これは**65歳以上の男女4万4083人**を対象に、**10年間追跡調査**をしてわかったそうです。ちなみに、**歯が20本以上ある人**の調査後の平均余命は、**男性が17.84年、女性が22.03年**でした。一方で、**歯が0本の人**の調査後の平均余命は、**男性が15.42年、女性が19.79年**だったそうです。また、**認知症のない余命期間もあわせて調査**したところ、こちらも**残存歯数が多い人のほうが認知症のない期間が長いという結果**でした。

このように残存歯数が多い人ほど健康寿命も長くなっていますので、
歯を1本でも多く残せるように共に頑張っていきましょう！

